

令和2年度 田園の里 新田学園 自己評価書

【4段階評価】 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

◎ 本年度の重点目標 キャリア教育を学校教育の基盤に位置付け、「夢や希望」「継続と挑戦」「学力・体力の向上」を取組の柱として、学校の教育目標「夢や希望をもち、心豊かにともに伸びゆく新田の子どもの育成」に迫る。小学部と中学部の総力を傾注して、地域に根ざした小中一貫校を創造する。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析（○●）及び改善策（△）
				指標別	総合	
夢や希望	自己理解、他者理解の機会の推進	自分の良さや友達の良さが言える児童生徒100%をめざす。	良さを褒めたり、良さに目を向けた肯定的な言葉かけを行ったりすることで、自己肯定感の育成を図る。	3	3	○日常の指導に加え、定期的教育相談やアンケート、SWPBSの視点も加えられたことで、児童生徒の実態を把握でき、それを伴う指導を行うことができた。これによって、自己肯定感を高めることができたと思われる。 ●コロナウイルス感染症の対策があり、外部（校外）の活動が制限されたため、外部講師の招へいや校外での地域の学習が制限されたりするなど計画的に進めることができなかった。 △自分や友達、ふるさとの良さを感じながら、夢や希望に向かって行ける児童生徒を育成するために、カリキュラムの見直しを図ると共に指導後の見届けと励ましを継続することを意識したい。 《学校関係者評価委員会》 □褒めるときは褒め、注意するときは注意するといったメリハリのある教育が必要がある。 □コロナ禍の中でできること、できないことを見極めた活動ができています。 □自分の将来像を描くことは大変大切なことと思う。早からの動機付けの機会が必要と思う。
			友達の良さを知り、認めることで、互いに刺激し合いSWPBS（ポジティブな行動支援）の視点を取り入れ、切磋琢磨できる人間関係の形成を図る。	3		
	地域の良さの実感と学校での学びを社会とつなぐ機会の充実	全学年で地域について学ぶふるさと学習を位置付けることをめざす。	地域の施設や人材等を活用した学習を行うことで、SDGsの授業の充実を図り、地域のよさを実感するとともに学校での学びと社会生活との関連への気付きを促す。	2.5		
	進路や生き方、将来に対する夢や希望について考える機会の設定	生き方や将来の夢や希望について考えている児童生徒90%以上をめざす。	高校説明会や職業講話、職場体験学習等を教育課程に位置付けることで、将来に対する夢や希望をもたせるとともに生き方について考え、進路選択についての意欲付けを図る。	3		
継続と挑戦	規範意識の醸成と凡事徹底	挨拶、返事、整理整頓ができる児童生徒80%をめざす。	凡事徹底の項目を挨拶、返事、整理整頓に絞って指導し、当たり前前を当たり前前に継続して実践することの意識化を図り、規範意識を醸成する。	3	4	○挨拶ができていない児童生徒約8割、返事ができていない児童生徒約9割、整理整頓ができていない児童生徒約8割となっており、成長をしている児童生徒がほとんどである。小学部では高学年や委員会を中心に、中学部では部活動単位であいさつや返事に取り組んでおり、今後も称賛や言葉かけを続けていきたい。 ○働き方やストレスとの向き合い方に対する意識は高まってきている。子どもと向き合う時間を確保できるよう業務内容と方法について更なる改善を図りたい。 ●一方で前期（4～9月）よりも後期（10～3月）が、意識が下がる傾向にあるので継続的な取組が必要であると考えられる。 ●不登校の生徒への対応を続けてきたが、改善されることはなかった。小学部段階から欠席や欠席の理由について把握し、適切な対応をしていくことが大切である。 △後期では、当たり前前を当たり前前に実践できるよう根気強く指導すると同時に、児童生徒の自主的、自発的な取組を促すようにしていきたい。 《学校関係者評価委員会》 □保護者への「いじめアンケート」も時々とってほしい。 □発達障がいの子もまたは、他の子どもと同じようにできない。一人一人の成長を見守ってほしい。 □いじめを減らす日々の取組はすごいと思う。 □あいさつは、コロナの影響で声を出す機会が少なくなっている気がする。 □家庭内での親子相互の意思疎通の大切さを保護者に再確認してほしい。
			成長の実感と学校に対する誇りの育成	継続したり挑戦したりする経験を通して自己の成長を実感する児童生徒100%をめざす。		
	いじめ防止と不登校への組織的対応	いじめ認知100%、解決に向けた対応100%をめざす。	毎月のいじめアンケート結果や問題行動等に関する情報を共有することでいじめを認知するとともに、いじめ不登校・校内支援委員会で慎重かつ迅速な対応を協議し、いじめの解決をめざす。	4		
			学級担任や養護教諭、特別支援教育コーディネーターをはじめ、外部専門家であるSC、SSW等の支援を含めた組織を強化し、支援や相談体制の充実を図る。	3		
	時間管理と健康管理ができる職員の育成	リフレッシュデーの100%実施をめざす。	毎週月曜日をリフレッシュデーとすることで、時間外勤務時間の削減に努める。	4		
ストレスチェック100%をめざす。			ストレスチェックを6月と12月に実施することで、心の健康の意識化を図る。	3		

令和2年度 田園の里 新田学園 自己評価書

【4段階評価】 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

◎ 本年度の重点目標 キャリア教育を学校教育の基盤に位置付け、「夢や希望」「継続と挑戦」「学力・体力の向上」を取組の柱として、学校の教育目標「夢や希望をもち、心豊かにともに伸びゆく新田の子どもの育成」に迫る。小学部と中学部の総力を傾注して、地域に根ざした小中一貫校を創造する。

学力・体力の向上	上を職め員ざのす授教業育力活と動生徒指導力向上による確かな学力・体力の向	確かな学力の向上	単元テスト80%以上、諸テストにおいて全国平均、県平均以上をめざす。	①めあてとまとめの整合性のある指導、②指導内容の精選、③実態の把握、④発問の精選と読解力の視点を意識した授業を行うことで、学力向上に迫る。	3	3	<p>○主題研究を通して、一人一人の授業改善、小中一貫校ならではの相互授業参観に取り組み、授業を実践することができた。</p> <p>○単元テストは、小学部では80%以上はクリアできている。県や全国規模のテストでは、小学部では全国平均以上の学年がほとんどである。中学部は、教科に差はあるが、平均程度という結果である。引き続き指導し、家庭学習も課しながら力をつけさせていきたい。</p> <p>○コロナ禍における部活動の在り方について生徒自らが考え実践した。自分で考え行動する力を育てることもつなげることができた。</p> <p>●読書の推進という点では、時間や機会を設定しなければ難しいところはある。すき間時間の活用も考えていきたい。</p> <p>●課題の提出やメディア使用のルールを守る意識を向上させる。</p> <p>△次年度GIGAスクールによるICT活用の授業開始に伴い、教職員のスキルアップ、意識転換が必要だと考えられる。</p> <p>《学校関係者評価委員会》</p> <p>□メディアに関する情報を保護者に浸透させていただきたい。</p> <p>□読み聞かせの時間もとても良い態度で小学生～中学生まで聞いている。</p> <p>□メディア、ネットルールを子どもがより理解すると共に、保護者も学べる機会が増えると良いと思う。</p> <p>□コロナ禍でありながらしっかりと取り組むべきことが理解されている。</p> <p>□入室しやすい職員室、質問しやすい先生を引き続き進めていってほしい。</p>
	読書環境の充実と読書の推進	発達段階に応じた読書冊数を達成する児童生徒80%以上をめざす。	新刊図書を紹介をしたりファミリー読書週間を設けたりすることで、読書に親しむ環境づくりを行い、読書活動を推進する。	2.5			
	家庭学習の充実	宿題の提出率90%以上をめざす。	発達段階に合わせ、家庭学習の質を高める事例を紹介することで、家庭学習への関心を高め充実を図る。	3			
	体力の向上	柔軟性と持久力向上のための運動の実施率80%以上をめざす。	柔軟性と持久力の課題に対応した運動を推奨することで、児童生徒の体力の向上に努める。	3			
	生活リズムの向上	「新田学園ネットルール」を守っている児童生徒80%以上をめざす。	「新田学園ネットルール」を活用し、自己の生活を振り返らせたり、教育相談を行ったりすることで、児童生徒の意識化を図り、生活リズムの向上を図る。	3			
	効率的な部活動の運営	週当たり2日の休養日の100%実施をめざす。	「新田学園部活動の基本方針」に則り、部活動休養日を完全実施することで、メリハリのある効果的な部活動運営に努める。	3			